

ゆざわのまち・ひと・しごと

おらがしごと

たかはし みつる
畜産農家 高橋 満さん



皆瀬地域で畜産業を営む高橋さんは、黒毛和牛「皆瀬牛」の飼育に情熱を注いでいます。品評会では多数の受賞回数を誇り、今年6月に行われた秋田産黒毛和牛「秋田牛」の肉質を競う共励会でも、最優秀賞のチャンピオン賞に選ばれました。

品質を守り 誰しにも誇れる味を



——高橋さんが生産している牛肉のこだわりを教えてください

和牛のサシは消費者にとっては魅力に感じられますが、生産者にとっては「見るもの」といわれています。多ければしつこくなり過ぎるので、適度なサシであつさりと言へやすく、甘みのある味わいを目指しています。

——高橋さんの飼育方法にはどのような特徴がありますか

飼料は父が行っていた方法を受け継ぎ、炊いたお米を約15%加えたものを与えています。玄米に比べて消化がよく、脂のやわらかさが生まれます。

——どのような時にやりがいを感じますか

飼料代や燃料、資材の高騰のほか、夏場の高温下での飼育管理など、悩みは尽きませんが、扱っていただいている旅館や販売店の方から「高橋さんの育てた牛は本当においしい」といった声をいただくことが多く、それが大きな励みになっています。

——ご家族は高橋さんの姿をどのように感じていらっしゃるでしょうか
早朝から夜遅くまでの作業で、家族には迷惑をかけていますが、妻は「いつも家族のために頑張ってくれてありがとう」と、ねぎらいの言葉をかけてくれます。たまの休みには孫サービスをしています（笑）

——どのようなことを心がけて牛に接していますか

エサをたくさん食べてゆっくり休める環境づくりを心がけ、毎日手間を惜しまず丁寧に育てています。牛にも性格があり、優しく接すると人

になつくので、手放すのが惜しいと感じることもあります。

——今後の目標、展望をお聞かせください
市場の変動に左右されないよう、繁殖頭数を増やしていきたいです。品評会などへの出品にも継続して取り組み、自分が育てる牛の品質を守っていくことが目標です。

